

お酒とスポーツ  
~のみリンピック~

大阪体育大学 富山ゼミ B

○岡野 恵莉 今西 祥章 掛川 嵩久  
後藤 誠弥 田中 聖也 山崎 茜

## 1. 緒言

近年、日本の大学スポーツの振興が図られている。しかしながら、日本の大学スポーツは海外の大学スポーツと比較すると人気は低迷しているのが現状である。その背景として、日本のスポーツは教育的概念が強く、中高生時に経験する体育の授業や部活動の厳しい経験によって「スポーツはきつい、しんどい」「スポーツは得意な人が楽しむもの」、という固定概念が生まれていることが考えられる。一方、アメリカやヨーロッパでは、好きなスポーツを自由に楽しみ、スポーツ活動やスポーツ観戦は生活の一部として浸透している。

## 2. 現状と課題

### (1)アメリカの大学スポーツ

大学スポーツにおいてアメリカでは、NCAA(National Collegiate Athletic Association)という、110年の歴史を持つ組織が存在する。これはスポーツ中のスポーツ事故や学業への悪影響が社会問題化したことによりスポーツの適切な運営管理を求めて発足した組織である(事業構想 PROJECT DESIGN ONLINE)。

NCAAは各競技の統括組織として存在し各競技団体の大会運営や、大学および学生アスリートの管理・指導・運営などを行っている。また、学業との両立支援だけでなく、学生アスリートの人間育成や、キャリア育成のためプログラムを提供していることでも注目されている。

### (2)日本の大学スポーツ

NCAAを踏まえ、日本でも日本版NCAAの発足が考えられている。これは一つの例であり、現在の日本の大学スポーツでもそれぞれの競技における学生連盟において様々な改革が行われている。大学スポーツを盛り上げようとしているが、学生連盟の努力が実っていない部分も多く存在する。日本版NCAAの設立が成功するか否かは、学生スポーツのレベルが向上するだけでなく、一般の学生が自分の大学のチームに興味を持ち、それを応援する土壌を学内に醸成することにある。

### (3)お酒とスポーツの関わり

スポーツ観戦の楽しみの一つに「お酒」がある。大学生が関わるスポーツは大きく分けて「部活動」「サークル」「ボランティア」の三種類に分類できるが、それらに所属しているとしばしば行われるのが「飲み会」で、新入生歓迎会や忘年会、大会の打ち上げなど、様々な節目でそれが行われる。

学生とお酒との関係を見ると、日本の若者のお酒離れが進んでいる。その理由として、まずお酒を飲むとお金がかかるという消費意欲の低下や、娯楽の多様化に伴って、ネットを通じて簡単に友人と繋がることができ、外に出で飲みに行くという習慣が減っている事などが理由として挙げられる。また最近ニュースでも見かけることがある飲み会による飲酒死亡事故の発生や、飲酒による集団暴行事件などの学生がお酒の飲み方を誤って起こした問題は多く存在する。

## 3. 調査・分析

### (1)ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり

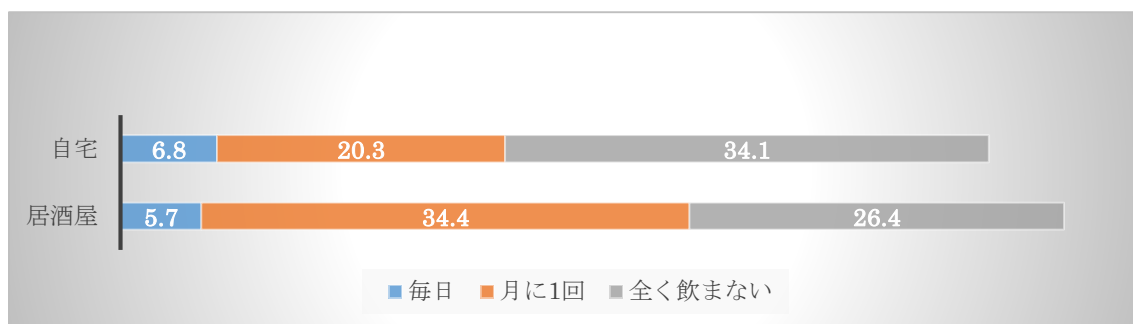
スポーツに対して、教育的概念が強い日本では、特に学校体育を通してスポーツと関わる場が設けられてきた。だが、大人になるにつれ仕事や育児などによりスポーツと関わる時間が減少している。

### (2)学生のお酒離れの現状

現役大学生（20歳以上）の290人に、マイナビが行った飲酒の実態に関する調査では、お酒を飲んだことがある学生は、90%、お酒を飲んだ事がない学生は10%で、90%が1度は学生時代にお酒を飲んだ事があるという結果であった。

また、大学生のお酒を飲む頻度については、居酒屋と自宅の2つに大きく分け以下の結果となっている。

図1 大学生のお酒を飲む頻度



(出典) マイナビ学生の窓口

これらの結果から、一度はお酒を経験するものの、お酒を嗜んでいる学生の比率はあまり多いとは言えない。一方、スポーツを観戦しながらビールを飲むと言った楽しみ方はスポーツ観戦の醍醐味であり、学生時代にこのような経験をする事は、生涯にわたってスポーツ

観戦に興味を持つきっかけになると考える。

### (3)学生の飲酒による事故

2015年東京消防庁の調査によると、20代の6,650人の人が急性アルコール中毒により救急搬送されている。節度のない一気飲みなどは時には命をも危険にさらすことから、学生時代に「楽しいお酒の飲み方」を経験することで、このような事故を防ぐことにもつながると考える。

## 4. 提言

本研究では、20歳以上の大学生を対象にしたスポーツイベント「のみリンピック」を提案する。会場は大阪府に位置する大規模スポーツ施設である大阪府中央体育館、長居公園、京セラドーム、大阪城ホールの四会場で、すべての会場にJR天王寺駅から20分以内で移動することができ、最寄り駅から徒歩5分以内の会場となっているため、飲酒を伴うスポーツイベントを開催するのに適していると考え設定した。

### (1)スポーツイベントの概要

大阪市立中央体育館では基本的なニュースポーツを行い、学生にスポーツの楽しさを感じてもらおう。そして長居公園と京セラドームでは、オリンピックやパラリンピック種目の体験型イベントを行う。内容は、種目ごとのブースも設置し、それぞれのブースを順にまわる形で実施する。ブースでの商品としてポイントが得られるようにし、そのポイントはスポーツ実施後の交流会イベントで飲食物と交換することが出来る。

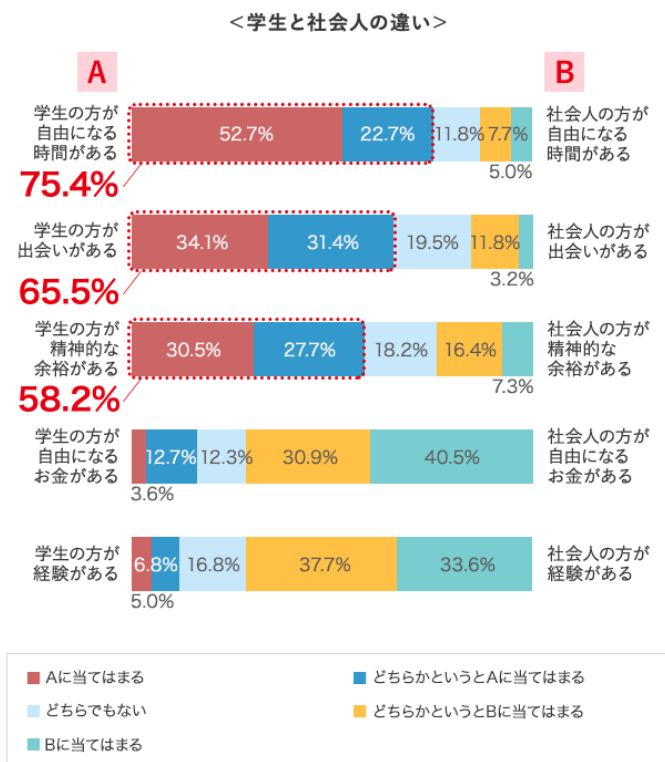
### (2)交流会・パブリックビューイングの概要

スポーツイベント後に大阪城ホールでパブリックビューイングをしながら会食パーティーを行い、食事とお酒を楽しむ。スポーツイベントによって得たポイントでビールなどのお酒と交換し、お酒を楽しみながら、大学スポーツのダイジェストVTRを大型スクリーンにて上映する。学生は日常体験することの少ないお酒を飲みながらスポーツを応援する経験をすることによって、スポーツ観戦の楽しみに触れることができ、同時に大学スポーツへの関心を高めることが出来る。

### (3)目的

3.調査・分析(1)でライフスタイルに応じたスポーツの関わりにおいて、大人になるにつれスポーツと関わる時間が減少すると述べた。それとは反対に、社会人と比較して大学生は自分自身に費やす時間がある。今回、対象を大学生としたのは、時間がある大学生にスポーツとお酒をコラボさせたイベントを提供することで、スポーツと関わるきっかけと新たな方法を与えることができると考えた。

図2 学生と社会人の違い



(出典)パートナーエージェント

## 5.まとめ

お酒とスポーツを結び付けた理由として、現代社会の学生のツールとしてのお酒の使い方が間違っていて様々な問題が起こり、その問題が学生のお酒に対する好感度の低下とお酒離れに拍車をかけ、そして社会もお酒に対する見方が昔とは変わりつつある。このお酒のメリットである人と人との交流の促進という観点から大学スポーツ盛況にお酒を活用できないか考えた。

大学スポーツに携わる学生の意見交換の場、大学スポーツに興味のなかった学生への宣伝の場を大学生（20歳以上）に提供することで、大学スポーツの更なる発展、認知度の向上に繋がると考える。

### ＜参考文献＞

- ・事業構想 PROJECT DESIGN ON <https://www.projectdesign.jp/201611/college-sports/003226.php> LINE (2016年11月号)
- ・マイナビ学生の窓口 <https://gakumado.mynavi.jp/gmd/articles/41708>
- ・パートナーエージェント [http://www.p-a.jp/research/report\\_82.html](http://www.p-a.jp/research/report_82.html)